

平成24年度 第24回 卒業証書授与式 式辞



校門の桜の蕾も膨らみはじめ、新たな命を育む春の息吹を感じる今日の佳き日に、大阪府立日根野高等学校第二十四回卒業証書授与式を挙げるにあたり、(大阪府教育委員会を代表して、文化財保護課総括主査 大谷治孝様、泉佐野市教育委員会学校教育課指導主事 道浦敏幸様、地元中学校の校長先生方、)をはじめ多数のご来賓並びに保護者の皆さまのご臨席を賜りました。卒業生はもとより本校教職員一同にとりまして心からの慶びであります。高いところからではございますが、心から厚く御礼を申し上げます。

さて、ただ今、所定の課程を修められ卒業証書を授与された二七二名の卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。本日こうしてめでたくこの日を迎えられたことに対して心からお祝い申し上げます。また、これまで成長を見守ってこられた保護者の皆さまにおかれましても、本日の晴れ姿をご覧になって、さぞかしお喜びになっておられるものと拝察し、心からお慶び申し上げます。

卒業生の皆さんは今、過ぎてしまえば長いようで短かった三年間のたくさんの思い出とともに、輝かしい未来にむけて、夢と希望に胸ふくらませ、この場に臨んでいることと思います。

思い起こせば、昨年の夏頃から、皆さんの活躍する良い知らせがたくさん届くようになりました。写真部の全国高等学校総合文化祭出展からはじまり、水泳部の近畿大会二大会連続出場、女子バレーボール部の近畿大会通算十一回目の出場、春高バレー決勝トーナメント出場、陸上部ハンマー投げで近畿大会出場、バドミントン部は泉佐野市民スポーツ大会で優勝、美術部の高校美術工芸展で絵画部門と立体部門で各々が優秀賞受賞、吹奏楽部は吹奏楽コンクール南地区大会で優秀賞を受賞、ハンドメイド部は和菓子甲子園に出場し銅賞を受賞、ダンス部は岸和田カンカン等でパフォーマンスを披露、将棋選手権では府個人戦S級で準優勝、近畿高等学校総合文化祭にも出場。また昨年、日本初の高校生トレーナー誕生で話題になったCSP(コモンセンス・ペアレンティング)で、今年もまた、二名のトレーナーが誕生しました。このように、次から次へと本当に素晴らしい成果を挙げてくれました。

その度に、校長室にいい知らせが届き、本当に嬉しく思いました。報告に来てくれた皆さんと話をしていると、その表情がまるでダイヤモンドの光の如くキラキラ輝いて見えて、そんな皆さんを見ているのが、私は大好きでした。一人ひとりが私の大事な宝であると同時に誇りに思えたものでした。

そのほかにも、ボランティア部が、「こころの再生」府民運動に参加し、挨拶運動や自転車の前籠防犯カバー取り付けや地域の清掃活動に参加し、また、泉佐野警察署管内防犯協議会の協力のもと、防犯用ホイッスルを配布する防犯キャンペーンにも参加しました。また、イオンモール日根野において、美術部・ハンドメイド部の作品発表と吹奏楽部の演奏会が開くことができました。家庭科の授業で、日根野保育園で保育体験の実習をさせて頂いたり、学校外においても地域連携に活躍してくれました。

それらの皆さんの活躍のおかげで、大阪府の「がんばった学校支援事業」において、その実績が認められ、地域連携に優れた取り組みを実践した学校に対する対象校に本校が選ばれました。頂いた多額の予算はいろいろなクラブ等に還元させて頂きました。

そんな二十四期生とは、私は同じ年に本校に赴任し、三年間という同じ時間を共に過ごしてきました。北海道への修学旅行も一緒に行き、学校では見られない違った一面も垣間見ることができました。それだけに、授業や行事・クラブ活動を通して皆さんと共に過ごした時間は、本当にかげがえのないものになり、そのたびに勇気や元気を一杯もらうことができました。

今回の卒業証書も昨年に引き続き、僣越ながら、私が自ら筆を執って一枚一枚、気持ちを込めて皆さんの名前を書かせて頂きました。一人ひとりの写真を見ながら進路状況と重ね合わせて、その成長ぶりに思いを馳せながら書かせて頂いた時間は、本当に幸せな瞬間でした。

さて、私たちを取り巻く社会は大きく変化しています。その変化の渦の中にあっては、自分を見失うことなく、困難に立ち向かうことのできる力強さとともに、未来を切り拓いていく逞しさや創造する力が、ますます必要になってきます。

今年の干支は「癸巳（みずのとみ）」の歳ですが、巳（へび）は、脱皮しながら成長することから、「再生の象徴」とも言われ、次の生命が作られ始める時期ともいわれています。新たな何かが生まれる時期という予感もとれます。蛇が脱皮するが如く、今までの自分の凝り固まった考えを脱ぎ捨て、自らの個性と能力を一層伸ばし、皆さんの夢をかなえる新たな一歩となることを期待しています。

一人ひとりの心の中に眠る「無限の可能性」や「無限の力」を目覚めさせてほしいと思います。そのとき、未来は変わりはじめるのです。閉塞感に満ちたこの現状から抜け出し、私たちは、必ずや「新しい社会」を築くことが出来ると確信しています。未来を創ろうとする、その「心の力」によって。

「思いの力」を信じましょう。「思いの力」が実際に仕事をしていきます。成功している自分の理想像を、「思いの力」で描いてみましょう。繰り返し、繰り返し、心の中で描くことが出来るかということが大切です。大きな理想を抱き、それを心に刻みつけて、繰り返し考え続けると、人間はその方向に向かって成長し、発展していきます。

大きな理想を実現しようとして、高い目標にチャレンジし続ける限り、数限りない失敗も出てくると思われますが、失敗をせずに成功を成し遂げた人はいません。

「失敗に対して、どのように対処するか」ということが、成功への道なのです。

「あらゆる苦難・困難の中に成功の種子がある」という考えをもつことが大事です。

もし、今、何らかの苦難に直面しているならば、それは「それだけの苦難に立ち向かうべき人物である。」と言うことを教えてくれています。「あなたが背負えないほどの荷物を背負わされることはありません。」とよく言われます。「失敗の中から何を学んでいくか」と言うことが最も大事なことです。

物事を成し遂げていく上で、苦難困難な壁に突き当たることはよくあることです。そこで、出来ない理由を挙げればきりがありません。出来ない理由を並べるのではなく、出来る方法はないかと考えることが大切です。

失敗を怖れず、何事にも果敢にアタックしてみてください。新しいことにチャレンジして、その中で得た発見・驚き・感動を自信に繋げていきましょう。

「努力は決して裏切らない」という言葉がありますが、無限の可能性を信じて努力を怠らず夢を形に実現していきましょう。

二十四期生の皆さんが、本校での三ヶ年の業を終え、これからの未来社会に巣立られるにあたり、「社会が何をしてくれるかではなく、自分が社会に何が出来るか」ということを問い続けてください。

最後に、もう引退をしましたが、K-1 世界王者の格闘家で有名な魔裟斗氏は、ある対談で、「人間が生きていく上で、最大の喜びとを感じる時はいつか？」と聞かれたら、「それは、自分が人から必要とされていると感じた時である。」と自信満々に述べていました。

皆さんも是非、人から必要とされる人間になってください。皆さんには、未来を創造する力があります。皆さんの持てる若い力が、「より良い社会の担い手」として大いに期待されています。その自覚と未来を担う人間としての使命感を持って、輝かしい未来創造のために益々精進されることを心から祈念して、式辞と致します。

平成二十五年三月一日

大阪府立日根野高等学校  
校長 牧野 浩二